

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	自ら主体的に学び、郷土を愛し、勤労を尊び、心豊かで未来を切り拓く調和のとれた産業人を育成する。	学校整理番号	37
(2)現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導やキャリアサポートに根ざした進路指導に重点を置き、特色ある教育活動に取り組んでいる。 地域団体や関係団体と連携協力し、地域に根ざした技術者の育成に努めている。 生徒個々の希望進路実現に向け、基礎学力の定着及び専門的な基礎技術・技能の定着・向上を目指した、組織的な指導体制の強化構築を進める。 	学校名	青森県立十和田工業高等学校
(3)重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 地域から信頼され、郷土及び日本の未来を担う人材の育成に努める。 学習・部活動・学校行事等の教育活動において、きめ細かい指導を実践し、生徒と教職員の豊かな人間関係を基本に捉えて、社会の変化に即応できる資質・能力、及び体力の向上に努める。 生徒・保護者や地域社会から信頼される学校であり続けるため、教職員は自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に即応できるよう自己研鑽に努める。 	全日制の課程	校舎・分校
(4)結果の公表	学校関係者評価(保護者アンケート等)の結果とともに、ホームページへ掲載して公表する。	自己評価実施日	令和8年1月19日(月)
		学校関係者評価実施日	令和8年2月3日(火)

(9)ーイ 学校関係者評価委員会の構成
 学校運営協議会委員8名、(内、いじめ防止専門員1名、PTA会長1名、9名中1名欠席)
 学校側参加者(校長(兼学校運営協議会委員)、教頭、事務長、関係分掌主任、記録) 11名 計19名

<(8)目標の達成度>
 A(ほぼ達成 80%(3.4)以上),B(概ね達成 60%(2.8)以上),C(やや不十分 40%(2.2)以上),D(不十分 40%未満)

№	(5)評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)ーア 学校関係者からの意見・要望・評価等
1	地域から信頼され、郷土及び日本の未来を担う人材の育成に努める。	①専門高校の特色を生かした学校づくりを推進する。 A)小学生対象の、ものづくり体験教室の実施 B)小学生対象の、プログラミング教室の実施 C)ロボット競技大会への参加 D)ものづくりコンテストへの参加 E)校内外の研究発表の実施 F)あおり創造学による「地域産業の未来づくりへのものづくり・ひとづくり」の実施 G)台北市立松山高級工農職業学校との交流	A)小学生ものづくり教室(十和田東小、上北小)を実施した。 B)小学生プログラミング教室(十和田東小)を実施した。 C)本校からはロボット研究部から3年生チームと1・2年生チームの2チームが出場。結果は3年生チームが3位、1・2年生チームが9位であった。 D)今年度、ものづくりコンテスト木材加工部門で東北大会へ出場。青森県ものづくりコンテストでは「電子回路組立部門」が第1位で令和8年度の東北大会へ。ほか「旋盤部門」第4位、「電気工事部門」第6位、「木材加工部門」が第6位と第8位となり、それぞれ奨励賞であった。 E)研究成果発表会県大会(五所川原工科高校会場)は、建築科の3年生が2月に参加。 F)あおり創造学で、三本木小唄普及活動や小学生ものづくり教室、小学生プログラミング教室、高校生ものづくりコンテストへの参加を通して学校の魅力発信に貢献、そしてNTT東日本見学による地域企業の研究を行った。 G)台北市立松山高級工農職業学校との交流会を行った。 【評価項目:教員14,17保護者3,9生徒6】	B 教職員 3.25 保護者 3.40 生徒3.53 平均3.39 R6.3.38 R5.3.37	(9)ーア 学校関係者からの意見・要望・評価等 目標はおおむね達成されていると判断される。 ・小学生との交流、十和田市秋祭りへの参加など、地域に貢献する姿勢は高く評価できる。 ・高校、大学等との交流事業はさらに活発に継続するよう要望する。 ・課題研究に関する本年度の生徒の成果発表会における建築家生徒の研究内容は優れている。 ・小学生ものづくり教室では、現在の2校以外にも受け入れを検討しているのをお聞かせください。 ・少年消防クラブは、良い取り組みだと思います。もう一歩踏み出して防災士の資格を取っても良いと思う。 ・熊対策について説明を。 ・冬期間、正門から玄関までの通路が危険ではないかと気になってきた。 ・学校として秋祭りに参加していますが、地域での参加生徒も増やしていきたい。 【その他・質問等】 ・先生方の負担が減らないとは、毎年の課題のようだ。先ほど、欠員があり負担が増えていると述べられていた。来年度、この欠員は、生徒の習熟度を上げるために解消することが必要である。是非、教育委員会には欠員解消していただきたい。
		②地域と連携した教育活動を継続して行う。 A)本校の広報活動(体験入学、中学校での学校説明会、公開授業) B)地域ボランティア活動(学校周辺の清掃・海岸清掃)の実施 C)地域企業による技術指導、企業見学等 D)十和田市秋祭りへの参加 E)キャリア教育パートナーシップの活用 F)前向きに生きる力を育むふれあいミーティングや十和田自炊塾、福祉体験学習 G)東小学校シンボルツリー飾りつけへの協力 H)八戸工業高校との連携事業 I)北里大学学生が本校の授業を参観	A)体験入学では、生徒体験実習や保護者見学そして中学校教員説明会を実現できた。公開授業を4月(1日)・10月(2日間)の2回実施した。 B)地域ボランティア活動は6月校内外の清掃活動、9月にサッカー部と有志による横浜海岸の清掃活動を、教員と生徒の協力を得て実施することができた。 C)地域企業等による出前講座(ITH合同会社・東北電力ネットワーク・八戸工業大学)や技術指導(NTT・TTK)、施設体験研修(イオスエンジニアリング&サービス)、各科企業見学や交流事業、意見交換会を行った。 D)十和田市秋祭りのパレードへ、三本木小唄普及活動の一環として流し踊りに参加した。 E)キャリア教育パートナーシップを活用し、インターンシップの公開等に活用した。 F)2年生対象に前向きに生きる力を育むふれあいミーティングや十和田自炊塾、福祉体験学習を地域と連携して行った。 G)東小学校のシンボルツリーへの飾りつけの協力を行った。 H)八戸工業高校との連携事業で合同ワークショップを行った。 I)北里大学学生へ本校教員による理科の授業参観等を行った。 【評価項目:教員該当なし保護者17生徒該当なし】		
		③生徒の規範意識や防災意識の向上に努める。 A)情報モラル教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室、性教育講話、命を守る教室の実施 B)防災避難訓練の計画的実施 C)消防クラブの活動	A)本校の現状に即した内容で情報モラル教室等の各教室を実施した。生徒指導部通信でもその都度取り上げた。 B)避難訓練年3回実施。実技を伴う内容として各種体験学習を実施した。 C)消防クラブは避難訓練と十和田市総合防災訓練へ参加。将来の地域の防災リーダーとしての育成している。 【評価項目:教員19,20,39,43,47保護者10,11,22生徒7,17】		
2	学習・部活動・学校行事等の教育活動において、きめ細かい指導を実践し、生徒と教職員の豊かな人間関係を基本に捉えて、社会の変化に即応できる資質・能力、及び体力の向上に努める。	①確かな学力と主体的に学習に取り組む態度の育成を強化する。 A)基礎知識の習得と技能の育成 B)全校漢字テスト、学年別の学習取組(自学ノート、常識テスト) C)高校生のための学びの基礎診断テスト D)資格取得と絡めた主体的学習態度の育成 EICT機器を活用した授業展開と改善	A)「数学Ⅰ」、「英語コミュニケーションⅠ」で習熟度別授業、「体育」、「芸術(選択)」、「工業(工業技術基礎、実習、課題研究)」で少人数指導、「論理国語」、「工業(工業情報数理、製図)」チームティーチング活用による高い学習効果の実現。少人数制の指導による基礎技能の定着が図られた。 B)全校一斉漢字テスト(全6回)を実施。 C)学びの基礎診断テストの結果の分析会(Web研修)を行い、個々の学習指導へと展開、確かな学力の定着と保証を目指している。 D)ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導(成就感)が、主体的な学習活動へ繋がっている。 E)外部講師による教員向けClassPad研修会を行った。また、ICTを活用した授業を実施。授業展開・内容の活性化に努めた。 【評価項目:教員11,12,13,15,18,40,44,48保護者7,8,23生徒2,4,5,18】	B 教職員 3.22 保護者 3.34 生徒3.45 平均3.34 R6.3.36 R5.3.17	(9)ーア 学校関係者からの意見・要望・評価等 目標はおおむね達成されていると判断される。 ・きめ細やかな生徒指導、習熟度の上がる教育のために、現状では不十分との報告のあった情報の共有を充実されるよう要望する。 ・教員の欠員があれば、速やかな補充と、特に重点分野に関してはさらなる充実を要望すべきと考える。 ・生徒情報交換時の入力シートについてどのような形式のものか。 ・グランドデザインは何年か前に説明されたと思いますが、見直しはどのようにされているか。 ・道徳教育で、課題研究を通じて工学倫理、工業倫理、製造物責任、偽装問題に対する対応など教育されているか。 ・困っている生徒へのメンタルヘルス教育や関係機関とどのように繋いでいるか教えて下さい。 ・いじめや非行について具体的に教えていただけますか。 ・3年生の進路状況も100%に近くなるように達成して頂きたい。 【その他・質問等】 ・AIの活用についてお聞かせ願いたい。 ・AIを使ったことで学力が上がらないと聞く。地域の人と話をするなどの関りを広げて欲しいと思っている。 ・不登校の生徒は何人いるか。取り残さないで育てて欲しい。 ・図書館の利用は必要だと思っている。 ・現在35人定員に30人程度と大変厳しい状態だと思う。地域の発展の原動力になるので、県内の就職率も高く、地域、地元企業の話を生徒に伝えて頂きたい。
		②生徒個々に応じた生徒指導とキャリア教育を強化する。 A)生徒理解を基盤とした、いじめの未然防止 B)教育相談、特別支援、スクールカウンセラー(SC)等の活用 C)進路相談、二者/三者/四者面談 D)2、3年生保護者への進学セミナー E)全校進路講演会 F)3学年対象の入職前研修、年令セミナー、法律講座、スーツ着こなし講座 G)進路ガイダンス、インターンシップ、企業見学 H)身だしなみ確認、駐輪場指導、登下校指導、校内外巡回指導、家庭訪問等 I)特別支援研修	A)理由があっても他人を攻撃しない」「他人を不幸にして喜ばない」の2つをベースとしていじめ防止を推進した。日常的に、様々な先生方がきめ細やかに生徒観察や声かけを実施している。また学年、担任による面談が随時行われており、生徒は落ち着いた状況で学校生活を送っている。 B)スクールカウンセラー派遣を積極的に利用し、支援が必要な生徒に関しては、担任・学年・保護者・SCと連絡を取り対応している。 C)「みちるべ」などを活用したキャリアサポート強化で学年及び学科に応じた適切なキャリア教育を展開することができた。 D)5月に進学希望者の保護者対象のサポート講演会、6月に3年生保護者対象の進路説明会を実施。また、3年次(1学期)の進路指導に係る三者面談を実施。1年、2年次の後半で、二者、三者、四者面談等を実施し、個に応じた生徒指導・進路指導に繋がった。 E)進路講演会として、有名人によるフューチャートレーニングを行った。 F)3学年の入職前研修を行う予定。 G)2学年全生徒のインターンシップ実施。各学年の進路ガイダンスにより、進路意識醸成や職業観育成の効果があつた。 H)さまざまな生徒指導活動と教育活動を通し、自己指導能力の育成(①自己決定の場を与える②自己存在感を与える③共感的人間関係を育成する)を目指す。 I)七戸養護学校より講師を招聘し、全教員対象の特別支援研修・ユニバーサルデザイン研修を行った。 【評価項目:教員2,4,22,23,24,28,29,30,38,41,45,49保護者2,5,13,16,18,21生徒3,8,9,10,13,14,16】		
		③学校行事等を通じた生徒の取組意欲の向上に努める。 A)マナーの向上や豊かな心の形成、生徒主体の企画・運営 B)学校行事及び部活動の精選 C)全校朝読書の充実	A)学校行事は生徒が主体的に企画・運営に携わり、目的を達成できるように工夫を凝らし実施することができた。 B)体育祭は通常通り実施、文化祭では一般公開を実施。生徒主体の運営・計画など、活動と発表の場を確保することができた。 C)朝読書をほぼ毎日全校で実施。また、月1回共通の題材を用いた読書活動を実施。落ち着いた授業態度と他者理解に繋がっている。 【評価項目:教員25,26,27,34,35保護者14,15生徒11,12,15】		
3	生徒・保護者や地域社会から信頼される学校であり続けるため、教職員は自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に即応できるよう自己研鑽に努める。	①学校の教育目標や学校経営方針または教育活動等の生徒・保護者・地域社会への情報提供。 A)中学生への進路選択の情報提供と本校への理解度向上 B)十和工だよりや学校ホームページの随時更新による情報発信 C)学校安全講習	A)中学生に対する本校への理解啓発のため、近隣の各校へ教務主任や副主任、部員が出向き、中学生・保護者・中学教員を対象とした学校説明会を実施。また、中学校からの学校訪問により、学校の理解促進につながった。 B)ホームページの更新と、中学校に送る十和工だよりの充実を図った。 C)学校安全講習として、十和田警察署より講師を招聘し不審者対応の講習を行った。 【評価項目:教員1,3保護者1,12生徒1】	B 教職員 3.27 保護者 3.30 生徒3.42 平均3.33 R6.3.29 R5.3.34	(9)ーア 学校関係者からの意見・要望・評価等 目標はおおむね達成されていると判断される。 ・学校のグランドデザインを適宜見直しLPDCAサイクルが回るよう要望する。 ・多忙とは思いますが、時間を確保して校内外での研修を積極的に推進するよう要望する。 ・PTA活動に関して、子供達の生活にも密接で比例するように感じています。十和田工業高校のPTA活動にも期待しています。 ・多くの保護者の方にPTAに関わって頂きたいと思っている。 【その他・質問等】 ・進路ガイダンスや参観日の参加率はどうか気になっていた。また、地区PTAもないので先生方と話す機会を設けてくれると良いと感じている。 ・学校評価に関して、運営関係の点数が低く厳しいと思っていた。 ・後援会として工業高校の発展のために環境整備等に取り組んでいます。先生方には子供たち、保護者のために色々取り組んでいただきありがとうございます。今後とも忙しいとは思いますがよろしくお願いたします。
		②保護者と教職員が連携して教育活動を行うPTA活動の推進。 A)教師と保護者との面談 B)PTA活動(県高P連下北むつ大会、研修等) C)学校行事(体育祭、文化祭)を利用した連携	A)各学年による三者面談、四者面談を実施。 B)県高P連下北むつ大会への参加、健全育成委員会による十和田市秋祭り巡回、和菓子作り教室、そして進路研修委員会によるクラブバンドを使ったバグ作り教室を実施することができた。 C)健全育成委員会による十和工祭での登校時一声挨拶運動(2日間のべ21名参加)を実施することができた。 【評価項目:教員31,32,33,42,46,50保護者19,20生徒該当なし】		
		③わかる授業を目指した授業改善に取り組む。 A)校内研修(互見授業・初任者研修授業研究、講習・研修会等) B)教職員研修の実施	A)互見授業による教員研修を行い、授業内容改善の活性化に努めた。 B)県外研修へ6名が参加した。研修報告会を1月に行い、全教員への情報共有を図った。 【評価項目:教員16保護者該当なし生徒該当なし】		
(11)総括	[1]ものづくり教育と資格取得を絡めた学習指導や、キャリアサポートに根ざした進路指導に取り組むことができた。インターンシップの実施と効果的な利活用に向け、地域企業との連携強化に努める。 [2]ICT機器の利活用を推進し、生徒の確かな学力の定着、及び生徒自らが主体的に学習に取り組む態度を育成する。 [3]教職員間の情報共有と連携の強化、また、学校運営協議会やパートナーシップ等を利用し、地域社会・人材との連携を強化、教育活動の充実と地域の特人材の利活用の充実を努める。 [4]上十三地域の工業高校として、地域社会を支え技術者倫理を持ち合わせた人材育成に努める。				